

## 町民参加プロセスの結果報告について

まちづくり町民意識調査	
調査対象	2,000名(町内在住満18歳以上の町民を対象に無作為抽出)
調査期間	平成31年4月26日～令和元年5月24日
調査項目	まちに対する好感度、現行施策に関する満足度と重要度評価など
回収数	580名(回答率29%)
概要	<p>【主な調査結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「まちが好き」(愛着度)が6割近くを占める。</li> <li>・「住みやすい」(居住評価)が4割近くを占める。</li> <li>・「将来も住み続けたい」(定住意向)が5割以上を占める。</li> </ul> <p>【傾向・分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●「高齢化しても住み続けられるまちづくり」、「若者・子育て世代の移住促進」が今後取り組むべき重点施策としてあげられた。</li> <li>● 住み続けたいまちづくりの実現には、「子育て・教育環境の充実」、「健全な行財政運営」、「公共交通の充実」、「快適で安全な住環境づくり」が必要。(CS調査より)</li> </ul>

中学生アンケート調査	
調査対象	108名(町内中学校の第3学年)
調査期間	令和元年5月7日～令和元年5月31日
調査項目	まちへの愛着、居住評価、自身の将来、定住意向、今後のまちづくりなど
回収数	99名(回答率91.7%)
概要	<p>【主な調査結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「まちが好き」(愛着度)が8割以上を占める。</li> <li>・「住みやすい」(居住評価)が6割以上を占める。</li> <li>・「将来も住み続けたい」(定住意向)が約5割を占める。</li> </ul> <p>【傾向・分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 町への愛着度が高く、住みやすいとの意見が多くあげられた。定住希望も半数近くあり、働く場があれば、定住希望者も増える傾向にある。郷土愛の醸成と雇用の場の創出が、中学生世代に求められていると分析。</li> </ul>

高校生アンケート調査	
調査対象	204名(町内高等学校の第3学年)
調査期間	令和元年6月10日～令和元年6月28日
調査項目	まちに対する印象、卒業後の進路、今後のまちづくりなど
回収数	197名(回答率96.6%)
概要	<p>【主な調査結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「まちが好き」(愛着度)が5割以上を占める。</li> <li>・「住みにくい」(居住評価)が5割以上を占める。</li> <li>・「将来、住みたくない」(定住意向)が3分の2を占める。</li> </ul> <p>【傾向・分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 中学生と比較して愛着度が低く、ふるさと学習等による郷土愛の醸成が必要であると分析。町外の学生からはアイヌ文化や白老牛が広く認知されている傾向にある。</li> </ul>

団体ヒアリング調査	
調査団体	8団体(子育てママ、外国人定住者など)
実施日	令和元年5月30日～令和元年8月27日
調査項目	団体ごとに個別テーマを設定
参加人数	115名
概要	<p>【傾向・分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●子育てママ:他町と比べ、子育て支援サービスの質が高く、満足度も高い。緊急時の医療体制や子どもの遊べる場の少なさ等が課題。</li> <li>●外国人定住者:多言語対応、特に災害時の情報発信のあり方について不安を感じる。</li> <li>●若手事業者・経営者:まちの衰退に対する薄い危機感や担い手不足が課題。</li> <li>●役場若手職員:日常生活における地域との関わりの希薄さが課題。</li> <li>●移住者:移住希望者・予定者に対するまちの情報発信の弱さが課題。</li> <li>●一次産業(漁業):漁獲量の減少に伴う今後の漁業のあり方について不安を感じる。</li> <li>●一次産業(畜産業):白老牛の更なるブランド化が課題。</li> <li>●町内会:役員のなり手不足、若い世代の加入率の低さ等、持続可能な町内会運営のあり方が課題。</li> </ul>

まちづくりワークショップ	
開催日	令和元年8月9日
開催内容	<p>【第1部】 将来の白老町のまちづくりを考える</p> <p>【第2部】 まちづくりワークショップ</p>
参加人数	61名
概要	<p>【まちづくりワークショップでの主な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●日常生活における足の確保への不安感</li> <li>●空き家・空き地の増加による防災・防犯上の不安の高まり</li> <li>●高齢者に対する在宅医療の充実</li> <li>●子育て世代に対する包括的な支援体制の構築</li> <li>●児童生徒の減少に伴う、部活動等の停滞</li> <li>●若者への魅力ある雇用の場の創出、担い手不足の深刻化</li> <li>●地域資源の磨き上げ、周遊性向上に資する取組みの強化</li> <li>●地域コミュニティの活性化、若い世代の参画促進</li> <li>●身の丈にあった健全な財政運営 など</li> </ul>

小中学生まちづくりに関する標語	
募集期間	令和元年5月20日～令和元年5月31日
応募件数	小学生の部:144作品(136名) 中学生の部:263作品(258名)
最優秀賞	<p>【小学生の部】</p> <p>最優秀賞:奏でよう未来 豊かな心で 白老町</p> <p>【中学生の部】</p> <p>最優秀賞:つくろうよ 協力し合い 支え合い 思いがあふれる白老町</p>